

令和3年度

事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
み ど り が 丘 保 育 園

令和3年度 みどりが丘保育園 事業報告

園児数

0歳児	1歳児 2歳児	3歳児	4歳児 5歳児	計
15名	65名	35名	69名	184名

職員配置

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	子育て	一時保育	フリー
保育士	5名	6名	5名	3名	1名	2名	1名	2名	1名
保育補助		1名	1名						1名

栄養士	看護師	調理師	調理補助	事務	用務	育休
1名	2名	2名	2名	2名	0名	6名

各種会議

開催日	会議名	内容
毎週金曜日	週案会議	翌週日程 行事等連絡事項 その他特記事項共有
第1水曜日	療育保健衛生委員会	気になる子についての情報共有
第2水曜日	事故虐待防止委員会	ヒヤリハット、事故報告、マルトリートメント実態共有
第3水曜日	給食会議	嗜好調査、食育情報共有
第4水曜日	防災会議	避難訓練反省
随時	チーフ会議	運営ミーティング 緊急事項対策会議

園内研修

開催月	題材	内容
5月	肯定的な評価 理解が出来る職場	相手を理解し肯定的なコミュニケーションで思いやりある職場をみんなが目指す。
6月	事故・虐待防止	自分は違う、自分はできている。それが最も危険なサイン。
7月	地域交流推進	社会福祉を担う私たちが行うべき地域貢献とは。
8月	キャリアアップ研修報告	保護者対応について。
9月	AED講習 防災	AEDの使用方法を実践形式で学ぶ。
10月	嘔吐処理講習	嘔吐処理方法を実践形式で学ぶ。
11月	障がい児保育・療育	気になる子の活動を実際に観察し、資料では読み取れない情報を感じる。
12月	主体性をのばす	クラスの環境構成についてねらいや工夫を学ぶ。(0・1・2歳児クラス)
1月	主体性をのばす	クラスの環境構成についてねらいや工夫を学ぶ。(3・4・5歳児クラス)
2月	1年間の振り返り	園内研修で得たものをどう活かしているかを各々が振り返る。

園外研修

9月	保育内容研修会	効果的な絵本の読み聞かせ・お話の技法 (youtube)
8月	キャリアアップ研修	保健衛生・安全対策
8月	キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援
8月	子どもの健康と安全セミナー	保育現場における感染症対策 (zoom)
11月	中堅保育士研修会	「発達が気になる子ども達の支援について」
12月	子育て支援研修会	「子育て支援の原点～いのちの出会いを支える～」
1月	地域子育て支援拠点事業 オンライン情報交換会	コロナ禍においての子育て支援のあり方

- ・ 昨年度に引き続き、園内・園外共にコロナウイルス感染症の影響が大きく響いた1年となった。園内研修については、グループ参加型スタイルも定着し、より多くの職員が参加しやすい形にと工夫もみられた。職員同士が意見を出し合い、実践で感じる保育の難しさを共感しながら解決に向けてグループディスカッションを交え議論していく流れが主な形となっている。お互いに刺激し合い、認め合う事でスキル向上に向けて重要な時間と空間を構築できたのではないだろうか。
- ・ 園外研修については、千葉県保育協議会山武支会主催研修会はほぼ全ての日程において中止となる。唯一 Youtube を用いた研修を導入した担当園があり、みどりが丘保育園も参加することができた。今後山武支会においても web 研修を普及すべきかの話し合いが行われると思う。キャリアアップ研修においても e ラーニング形式の導入が始まり、研修の在り方自体が変化を帯びている。キャリアアップ研修の参加状況は概ね予定通りに行えたが、その他研修については例年通りの参加件数には至っていないのが現状。来年度は計画的に参加スケジュールを組んでいきたいと考える。

組織体制

- ・ 各事業所・各クラスでのミーティングを遂行し、問題点、改善点の把握から実行改善までを迅速に対応。また、ミーティングにおいては、子ども達の個々の発達状況や気づきを職員間で意見しやすい場として設け、密な情報共有からの保育のステップアップへと繋げる。
- ・ 他部署間の報・連・相の徹底。
- ・ 感染者が確認された場合の園の対応が流動的になる中で、情報が交錯しないよう連絡を密にとる。
- ・ 働きやすい職場環境の実現に向けて業務の効率化を計画的に進めていく。(進行中)
- ・ 園児・職員の健康状態を組織的に把握し、感染症への迅速な対応を心掛け、他機関との連携が円滑に進むよう努力した。
- ・ 各分野別リーダーの年間目標を明確化することでサブリーダー、その他職員が共通理解を図り業務分担が適切に行えた。
- ・ チーフ間の連携強化を強め、組織体制の充実を図る。
- ・ 人事考課を取り入れ、個人が園の方向性を把握した上で、やるべき事を明確化、評価につなげた。
- ・ 各委員会のリーダーが委員会やミーティングを通して参加者の中心となりリーダーシップを図り、専門知識の向上に努めた。

年間行事

日程	行事名	内容
4月1日	入園のお祝い	各クラス分かれてのクラス説明会。
5月10日～	保育参加	各クラスフリー参観形式 1日2～3名限定
5月中旬	春の遠足	3・4・5歳児対象 芋苗植え・公園遠足等
6月3日	からだのがっこう	5歳児対象 健康増進活動
6月下旬	内科・歯科健診	前期
7月12～16日	夏まつり	遊戯室を会場とし、クラスごとに日にちを分けて開催。
7月15日	プール開き	プールは中止。水遊びごっこを行う。
9月下旬	親子運動会	園庭にてクラス別で開催
10月上旬		保護者一家族1名制限
10月中旬	秋の遠足	3・4・5歳児対象 芋ほり・公園バス遠足等
10月下旬	内科検診	後期
11月19日	卒園遠足（5歳児）	千葉市動物公園。感染症を踏まえ、3月から11月に変更
12月上旬～	発表会（3・4・5歳児）	各クラス3部制に分け、保護者各家庭1名参加。
12月24日	クリスマス会	クラスごとにサンタと記念撮影。プレゼント開封
1月7日	お正月お楽しみ会	日本のお正月の文化に触れながら、1年の健やかな成長と健康を祈願する。
2月3日	節分	年齢に合わせた行事内容。豆の使用にも留意。
2月中旬	歯科検診	後期
3月3日	ひなまつり	年齢に合わせた行事内容。
3月9日	お別れ会	4歳児から代表者を選抜し、5歳児にお礼の言葉やプレゼントを渡す。職員のビデオレター上映。
3月20日	卒園式	卒園証書授与。 会場はランチルーム・あじさい組・ひまわり組で行い、スペースを保つ。保護者1家族2名参加可としたが、1名は、隣のひまわり組でライブ映像鑑賞。証書授与の時に席から移動し、園児から証書を2人で受け取る。

- 各行事は園全体一斉に行う形式は行わず、クラスや年齢ごとに分かれて行う形式が主流。保護者参加や地域参加も引き続き制限を設け、感染症対策に留意した内容となっている。
- 季節の行事では、クラスごとに絵本などを用いて行事の由来や意味あいなどを子ども達が興味を抱くよう試行錯誤し、製作や遊びの発展につなげていく。
- 実物を目にし、触れる喜びを感じてもらえるよう、芋苗植え・芋ほり実体験や本物のこいのぼり、雛人形などを園内に展示する。
- からだのがっこうにおいても感染症対策に留意し、オンラインを用いた内容へと変化している。5歳児の身体のチェックでは、手の握力と足指の握力を年に2回測定。数値から子どもの身体の状態を分析し、改善に向けての運動遊びなどを保育園での生活に無理なく取り入れていく。巧技台や跳び箱を使用し、楽しく遊びながら手足の握る力や骨盤の可動域などに刺激を与えていくことで将来怪我をしにくい身体づくりを目指していく。
- 発表会は、各クラス3グループに分け、1日3部入れ替え制とし密状態を避け開催。クラスごとに子ども達と内容を決め、歌やダンス、劇などを発表する。友達同士話し合いの場を設け、意見し合い、辛い時は励まし合い、ひとつの目標に向けて協力し合うなど、子ども達の共生力を発表会という行事を通して育んでいく。
- 卒園式は、昨年度同様ランチルームと3歳児クラス・4歳児クラスを使用し、日曜日に開催する。保護者各家庭2名参加だが、1名は別室でライブ映像を通しての参加となる。コロナの関係で参加できない園児もいたが、その園児に対しては、別日に保護者と日程を合わせ、卒園証書授与式を行った。

新人教育

新卒者 4名 契約職員 1名 入職

- ・新入社員オリエンテーション
- ・新人正規職員メンター配置（保育士ノート記録 所見 指導）
- ・面談

新卒者向けのオリエンテーションを試みたが、保育中では中々伝えられない内容を集中的に座学として学べる機会を与えられたことは良い結果だったと思う。しかし、1日で詰め込みすぎる事が新卒者の負担につながる場面もあった為、反省点として次回に繋げられるようにする。

実習受け入れ

- ・千葉敬愛短期大学 2年次生 1名 保育実習Ⅰ 5月10日～5月15日（6日間）
- ・千葉敬愛短期大学 2年次生 1名 保育実習Ⅱ 8月20日～9月2日（12日間）
- ・城西国際大学 2年次生 1名 保育実習Ⅰ 10月25日～11月8日（12日間）
- ・大原医療保育福祉専門学校 1年次生 1名 保育実習Ⅰ 2月14日～3月1日（13日間）
- ・子育て支援員研修 1名 11月22日・24日（2日間）

コロナ禍により、受け入れを見合わせる施設も多数ある中で、みどりが丘保育園では今年度も積極的に実習生の受け入れを行った。

ボランティア受入・職場体験・町探検

- ・大網小学校2年生町探検、受入れ

パネルシアターなどを用いて児童に保育園の紹介を行う。みどりが丘保育園を卒園した児童も多く、保育園の雰囲気を懐かしむ姿がみられた。地域のつながりを感じる一コマであったし、この経験を機に保育士を目指す子が増えると嬉しい限り。

業務委託

日程	内容	委託先
6月8日 10月26日	内科検診	千葉東こどもクリニック（松崎 真由美 先生）
6月24日 7月1日 3月10日 3月17日	歯科検診	大網歯科診療所（和田 美昭 先生）
5月18日 10月12日	芋苗植え 芋ほり	内山農園
5月25日 5月26日 12月7日 2月21日 2月22日	歯みがき教室	大網白里市健康増進課歯科衛生士
6月3日 1月13日	からだのがっこう	健康増進推進団体「tocoS」

苦情報告

① (内容)

- ・友達とのトラブルについて。
- ・担任から送迎時その日の様子を伝えられるが、悪い事ばかり聞きいい思い出が少ない。心が折れそう。

(対応)

- ・様々な気付きを見逃さず保育園での様子を伝えていけるよう努力する旨を伝える。
- ・友達とのトラブルについては、経緯の説明にも聞き手の気持ちに配慮する事が必要だと職員間で話し合う。

② (内容)

- ・友達とのトラブルについて

(対応)

- ・喧嘩やいじめといった子ども同士のトラブルについて、保育園が子ども達に伝えていくべき事や対応できることが、今まで行ってきた以上にアプローチできる部分を模索し、検討した結果をお伝えしていく旨を伝える。
- ・職員間で周知し、全体で園児の様子を見守る体制をつくる。

③ (内容)

- ・保育士の保護者対応について

(対応)

- ・直接話し合いの場を設けていただき、保護者の想いを直接保育士に伝える。
誤解があったとは言え保護者の訴えを真摯に受け止め不適切な対応に向き合っていく旨を伝える。
- ・謝罪したから終了ではなく、園児との関わり方や注意の仕方などを職員間で意見交換できる環境を作っていくよう指導。

④ (内容)

- ・ママ連メールの不具合について

(対応)

- ・不具合について職員間の連携がとれておらず、結果的に対応が先延ばしになってしまった事を謝罪。
- ・再登録を行い不具合が生じないか確認を行う。
- ・月に1回テストメールを全保護者に送信し、不具合を事前に把握するようにし、不具合に対しては早急に対応するようにする。

⑤ (内容)

- ・園児のマスク着用について

(対応)

- ・マスク着用は決して強制ではないが、強制のような雰囲気を感じられるような保育士の言動に対し、適切な声掛けを見失わないように心掛けるよう指導。
- ・保護者に対して謝罪すると共に、日中の園児の様子を伝え、マスク着用に対する誤解を解きながら更にコミュニケーションを深めていく。

⑥ (内容)

- ・個人情報の漏えいについて

(対応)

- ・家庭同士がどこまで情報を共有しているかは把握しきれない。知っている事と勝手に思い込み安易に保育園側から情報を提供してはならない事を職員全体で再確認する。
- ・対象保護者に謝罪し、今後同じような事が無いよう注意していくと説明。

令和3年度「子育て支援センター」事業報告

事業方針

○市内の子育て支援センターと連携を図りながら、地域に開かれた施設とし、0歳から就学前の子どもを持つ家庭支援を行う。市内のニーズに応えられる子育て支援に尽力を尽くす。

事業目標

○乳幼児の親子が安心して1日のんびりと遊び、ゆったりとくつろいで過ごせる居場所の提供と、温かなふれあいの中で子どもの成長を喜び合いながら励まし合い楽しく子育てをしていけるようにする。また、親子と一緒に活動できる内容や成長発達に添ったプログラムを楽しむ。

実績報告

○パンフレットをリニューアルし市内の支援センターや店舗に置き宣伝をした。

○イベントについては、感染対策をしたうえで新たな形で開催した。

食育：野菜スタンプ・小麦粉粘土・栄養士による栄養相談、離乳食の話

行事：七夕・お月見・ハロウィン・クリスマス・お正月・節分・ひな祭り・誕生会
二部制や期間を長く設定し予約を分散できるようにした。

身体測定：特定の日を設定せず、随時測定。

製作活動：1週間や月単位と長い期間を設け、自由に取り組める設定にした。

○子育てについての情報交換や、保育園・幼稚園への入園申請の説明や相談、アドバイスをを行った。

○6月市内の子育て支援センターとの交流会を通じてコロナ禍の子育て支援について意見交換を行った。

○8月から10月まで千葉県緊急事態宣言の為に休園とした。

○たまごタイムとして毎週月曜日の午後には妊婦さんから1歳になるまでのお子さんのいる家庭を対象としたオープンスペースを設定した。

たまごタイムの中で月に1回ベビーマッサージ（有料イベント¥200）を行う。

○青空広場として月に1回みどりが丘中央公園にて遊びの提供を行った。

また不定期で青空広場を行い、地域の人との交流を務めた。

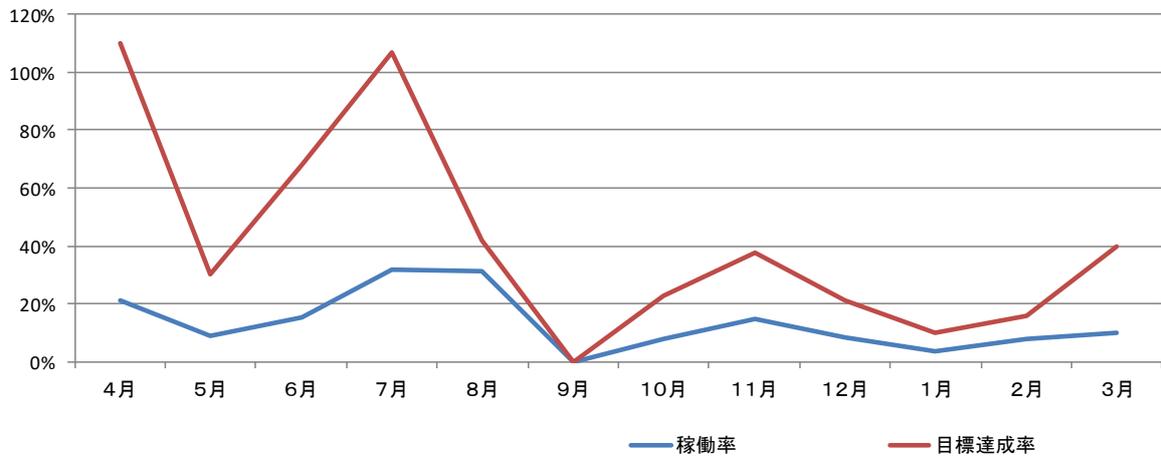
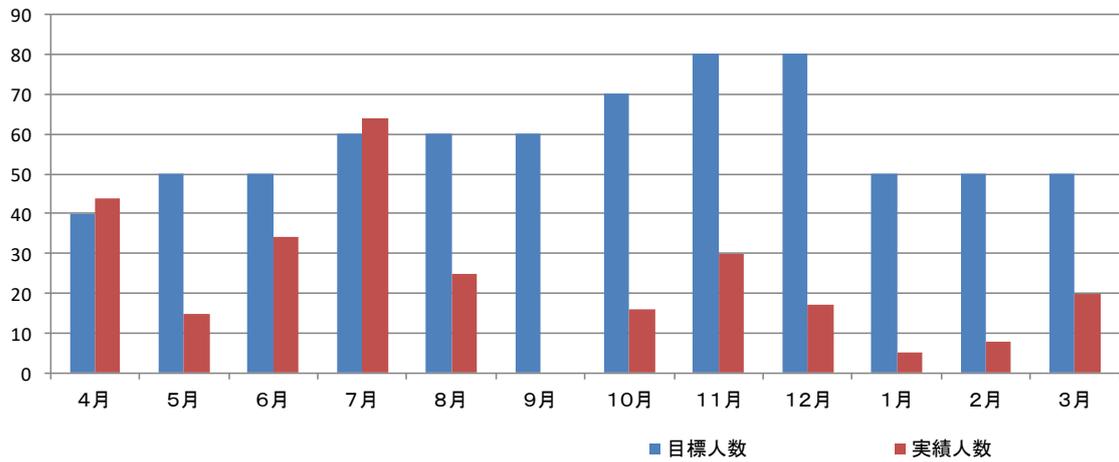
反省

- ・昨年度に引き続き、コロナ禍での影響で利用者数は少なかったが、新規の利用者が目立っていた。ポスターを市内のお店に掲示やパンフレットのリニューアル、青空広場など地域の人に周知してもらえる活動に力を入れた結果と感じたがまだまだ認知度は低い。
- ・職員の入れ替わりもあり、利用者との信頼関係を築きや情報共有などの引き継ぎが上手くいかなかったこともあるのか利用者数が伸びなかった。
コロナ禍ならではの子育て支援の工夫が必要かと思う。

令和3年度 社会福祉法人天光会 みどりが丘保育園 事業計画

子育て支援センター年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	40	50	50	60	60	60	70	80	80	50	50	50	700
稼働日数(日)	21	17	22	20	8	0	21	20	20	15	10	20	194
定員(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
実績人数	44	15	34	64	25	0	16	30	17	5	8	20	278
稼働率	21%	9%	15%	32%	31%	#####	8%	15%	9%	3%	8%	10%	14%
目標達成率	110%	30%	68%	107%	42%	0%	23%	38%	21%	10%	16%	40%	40%



令和3年度「一時保育事業」事業報告

事業方針

○保護者の就労や通院・入院、育児の負担をリフレッシュしたい等で保育を必要とする子どもの養育を支援し、この地域で子育て中の両親の育児パートナーとして、乳幼児の育児相談に応じたり、保育に関する情報を提供したりする。

事業目標

○子どもにとっても保護者にとっても、安心、安全に利用できる環境を整える。
○乳幼児の情緒の安定を保障しながら子どもたちの生活全体が豊かなものとなるよう、家庭や地域における乳幼児期の養護や教育の支援に努める。

実績報告

○コロナウイルスの影響を受け人数制限や休園をその状況に応じて、その都度運営を行った。利用者に対し感染予防をしつつ、少人数ならではの手厚い保育を提供した。

○利用者にはコロナ感染症予防対策による健康チェックのお願いや濃厚接触者が出た場合、急遽休園になることを承認していただいていた利用のお願い、協力を得て行った。また、休園措置や再開時期の報告・利用予約等の詳細等をホームページに掲載し利用者が確認できるよう工夫した。

○家庭で保育をされている子どもであることを理解したうえで、個々にあった対応を心掛けた。

○就労理由で利用する方が多かった、保育園入園の申請についての説明や相談、アドバイスをを行った。

○保護者間での悩みや育児の悩みをもつ保護者の相談やアドバイスをを行った。(連絡ノート・面談等) 育児を頑張っている保護者に対し頑張りを認めたり、褒めたり、励ましたりし子育てに対し前向きになれるような言葉掛けや配慮を心掛けた。

○子育て支援センターと共通で利用されている家庭の情報交換をし、連携をとりながら行った。

反省

○子育て支援センターと共通で利用されている家庭の情報交換をし、連携をとりながら行ったことで家庭の背景を把握しながら保護者対応や子どもへの関わり方に丁寧な配慮ができたと思う。

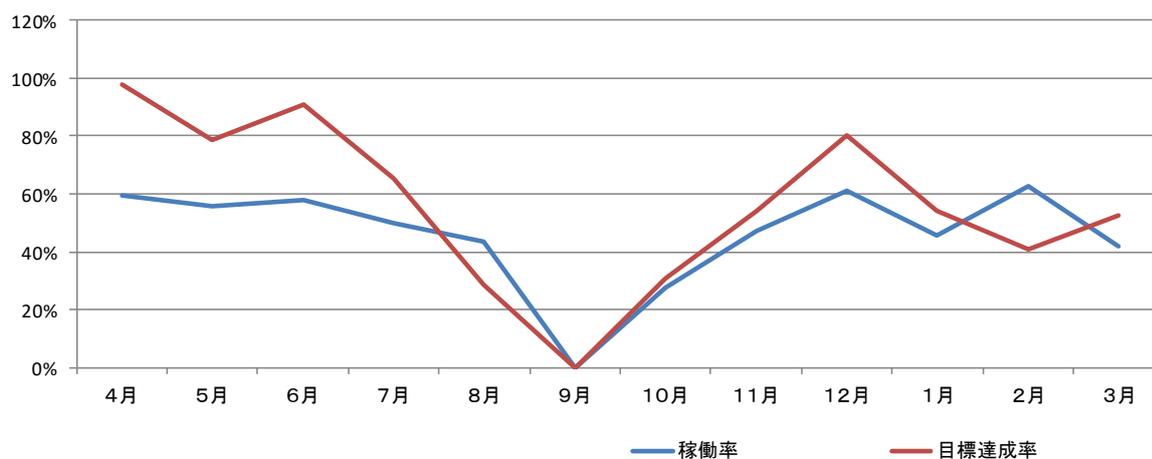
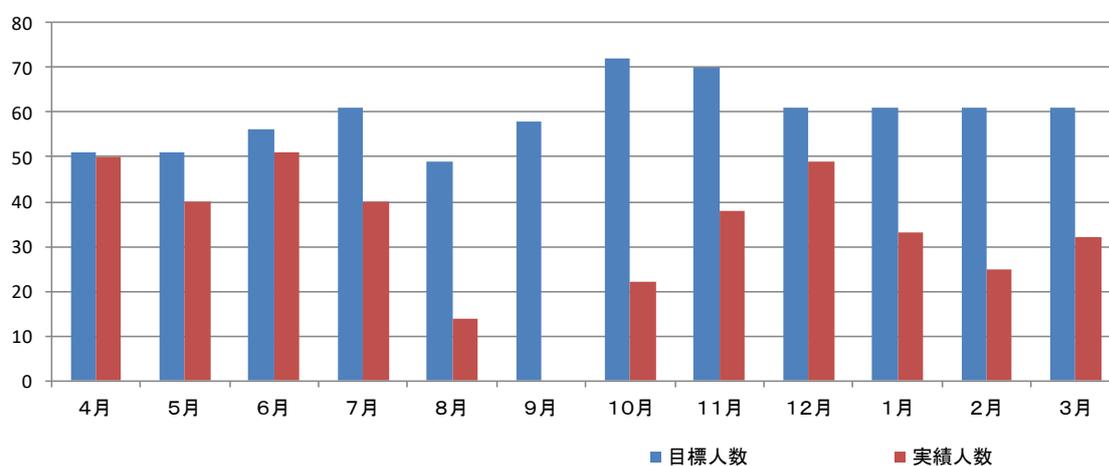
○保護者の就労支援や一時保育のニーズに応える場として、子どもたちや保護者にとっても安心して利用できる環境を提供することができたと思う。

○コロナ感染による対応措置は利用者の理解と協力を得ながらの運営となった為、利用が途切れてしまう人も中にはいたが、再開をまって利用してくれる人もいた。利用者との信頼関係が築けていたからではないかという気持ちにもなり励みになった。

令和3年度 社会福祉法人天光会 みどりが丘保育園 事業計画

一時保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	51	51	56	61	49	58	72	70	61	61	61	61	712
稼働日数(日)	21	18	22	20	8	0	20	20	20	18	10	19	196
定員(人)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
実績人数	50	40	51	40	14	0	22	38	49	33	25	32	394
稼働率	60%	56%	58%	50%	44%	#####	28%	48%	61%	46%	63%	42%	50%
目標達成率	98%	78%	91%	66%	29%	0%	31%	54%	80%	54%	41%	52%	55%



8月16日～休園に伴い クローズ
 9月 千葉県緊急事態宣言の為 クローズ
 10月 1日より再開

令和3年度「病後児保育事業」事業報告

事業方針

病気の回復期であり、かつ集団生活が困難な期間において、仕事を休めない親に代わり、子どもの状態に合わせた適切な保育・看護を提供し、いざという時の親子の安心につながる子育て支援に尽力を尽くす。

事業目標

子どもがゆったりと安心して過ごせる「空間」と1人ひとりに丁寧な「対応」を心掛け、病気や怪我などの回復を促すと共に、病気の回復期にある子どもの心に寄り添う保育・看護を提供する。

実績報告

- 食事時パーテーション使用・午睡時ソーシャルディスタンスの確保・換気・玩具などの消毒等、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底。
- 送迎時や連絡帳で個々の体調の情報共有を保護者と行い、個々の体調や症状、ペースに合わせ衣・食・睡眠等の工夫をした。また、利用者のいない子育て支援センターで遊んだり普段行く機会のない園舎の周りを散策したりして気分転換を図るとともに、家庭的な雰囲気ゆったりと過ごせるよう心がけた。
- 咳や鼻水がみられる時などには加湿器を使用したり、午睡時に上半身を高くしたりして症状による苦痛の軽減を図った。また、保護者への症状に合わせたアドバイス等を行なった。
- 積極的にクラスに入り普段から子どもたちと触れ合う機会を作り、身近な人という認識を持ってもらう（＝慣れてもらう）ようにした。
- 卒園児や園外児の病後児利用者を対象に次年度用登録票を配布（郵送）した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者減少対策として、在園児の給食・おやつ代を無料とした。また、市内の保育園を訪問し病後児保育のポスターの掲示をお願いすることで、病後児保育を知ってもらう機会を作った。

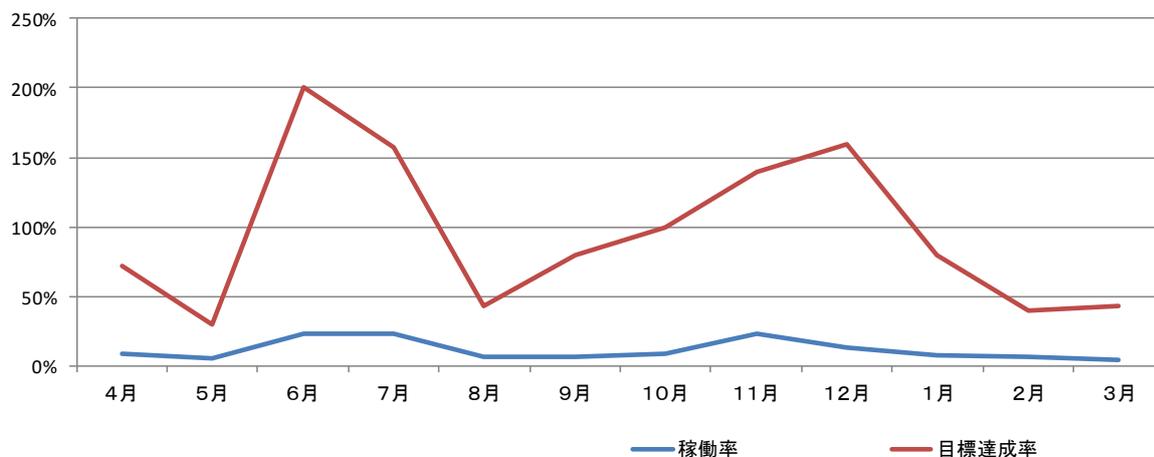
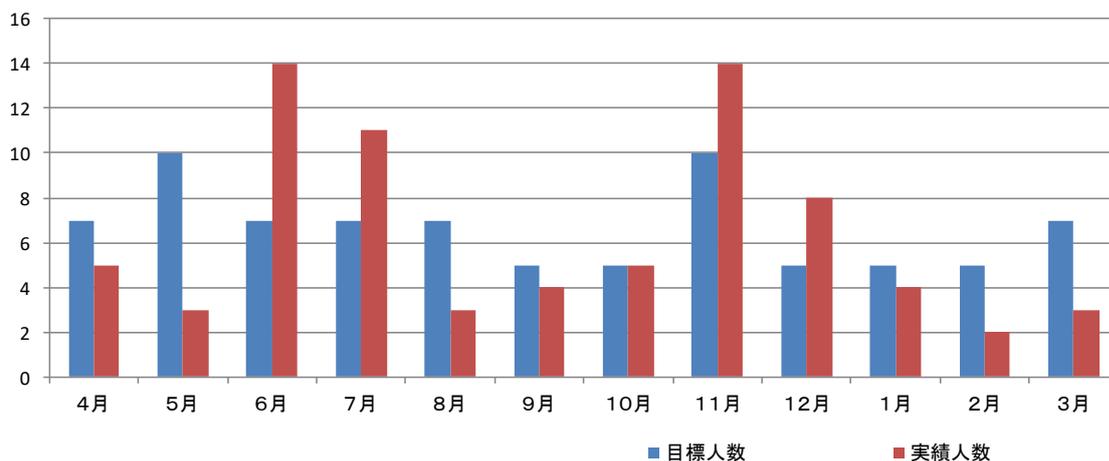
反省

- ・昨年度に引き続き、コロナ禍での影響で利用者数は少なかったが、コロナ禍1年目の昨年度よりは20名程増加した。病後児保育のポスターの掲示の影響なのか、外部からの問い合わせや新規登録が例年より増えたように感じた。来年度以降も、外部へポスター掲示等の働きかけをしたり、園内では体調不良児へ利用を促したり等の働きかけを積極的に行なっていきたいと思う。
- ・病後児を利用する際に安心して過ごせるように、普段からクラスに行き子どもたちと触れ合う機会を持つようにすることができた。

令和3年度 社会福祉法人天光会 みどりが丘保育園 事業計画

病後児保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	7	10	7	7	7	5	5	10	5	5	5	7	80
稼働日数(日)	19	18	20	16	17	20	20	20	20	19	11	22	222
定員(人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
実績人数	5	3	14	11	3	4	5	14	8	4	2	3	76
稼働率	9%	6%	23%	23%	6%	7%	8%	23%	13%	7%	6%	5%	11%
目標達成率	71%	30%	200%	157%	43%	80%	100%	140%	160%	80%	40%	43%	95%



令和3年度「栄養課」事業報告

事業方針

本園の給食実施においては、園に栄養士及び調理師担当を配置し、児童の発育における栄養、食生活を通して健全な発育及び健康維持、増進に努めるよう計画的に調理献立を作成し、給与を行うと共に保護者に対し献立を提示し、給食管理、調理技術の向上を図ることとする。

事業目標

給食義務の指導にあたり、児童の恒常的栄養改善と給食担当者に対し、勉強会、講習会を通して知識技術の向上を図り、給食義務の重要性を認識させ、法令、通知を理解し、指導助言を徹底させ子どもの心身の健全な発育、健康維持増進を図るような指導管理をする。

実績報告

1. 給食管理については、月に1度の給食会議を通して各年齢別の情報交換、相談を行った。行事食、季節に応じた食品の選定、また偏食児の対応を可能な限り留意した。
2. 給食栄養量を満たすことを目的に計画的に献立作成をし、栄養計算と年齢別給与に努め、さらに毎回園児の残食調査を実施し、嗜好や盛り付けを研究しながら残食防止を図った。
3. 栄養指導については成長曲線を著しく下回っている児童に対し、看護師、担任と連携しながら助言を行った。また、子育て支援センター利用者からの栄養、離乳食の相談、食のイベント(野外クッキング)は随時、行った。
4. 給食担当者の健康管理として、検便、毎日の健康チェックを徹底させると共に、食品の取り扱い、施設調理器具の消毒等の衛生に万全を期し『食中毒感染症』の発生防止に努めた。
5. 食育については、感染予防対策に留意しながら、可能な限り食材に触れる機会を作り、野外クッキングを行うなど臨機応変に対応しながら行った。

反省

1. 卵アレルギー疾患児に対し2件、誤って卵入りの料理を提供してしまった。2件とも配膳時に気が付いたので、摂取せずに済んだ。事故報告書を提出し、確認を怠らない様にする。
2. スライスチーズのフィルムが料理に混入していた。スピードも大切だが、異物混入が無い様慌てずに行う。
3. 業者からピーナッツを含んだ菓子を納品してしまった。みどりが丘保育園ではアレルギーの有無に関係なく、ピーナッツは提供しないことになっているため注意喚起しながら別の場所に避けておいた。しかし、数日後ピーナッツ入り菓子を卵アレルギー疾患児の代替え菓子里に提供してしまった。本児は家庭ではピーナッツを食べているという情報はあったがピーナッツもアレルギー数値があったため、預かり薬を投与した。気を引き締める様に職員で話し合った。
4. コロナ禍のため、黙食と喫食時間を短く設定した。幼児組は黙食の習慣が身についたが、偏食や時間をかけて食事する園児は食べきれないことが例年より多かった。短時間でも残滓を減らしていく様、工夫していくことが次年度の課題となった。

人材資質向上マネジメント執行報告

活動方針

- ・人材・人事マネジメント
- ・働きやすい環境作り
- ・人材不足への対応及び人材採用に向けての計画

年間目標

- ・新規雇用者が学びやすい職場環境を提案
- ・職員一同が働きやすい環境及び適正な人員配置の設定

執行報告

① 求人関係

- ・コロナ禍の関係で就活フェアなどの参加が無かったため、各学校に就活用の書類を郵送した。郵送での求人活動のため、書類に不備が無いよう、チェックリストの作成とどの学校にどの求人募集要項をいつ送ったかが分かるように書式を作成。また、各学校の求人募集要項の書式に合わせてPCで入力、手書きをし、学校専用の求人募集要項がない場合用の自園の求人募集要項の見直しやパンフレットを作成。
- ・園見学や就職希望者の学生からの問い合わせに対しての応答、案内面談日時の設定
- ・採用試験の結果郵送。 ・新入職員向けオリエンテーションの計画、実施。

② 働き方改革について

- ・コロナ禍での業務に対する悩み等アンケートを作成し、回答をもとにチーフ会議で話し合い要望可能な点については変更し、厳しい案については理由を説明した書類を作成、配布。
- ・令和3年度より有資格所の常勤パート職員の職務見直しを行ったため、常勤パート職員会議を開催し、悩みや要望などを共有した。
- ・新入職員向けに入職1ヶ月、3ヶ月、半年毎に面談を実施するため、メンターやリーダー職員と新入職員からの聞き取りを行った。良い点と改善点など新入職員に面談にて伝達。

③ 人事考課表について

職員の質の向上、定期的な配置(キャリアアップを含む)を目標とした人事考課表の書類管理

④ 人員配置について

- ・新規雇用4名退職者なし
- ・次年度新卒者雇用1名、常勤パート職員1名採用。
- ・年度退職所1名(パート1名、シャイニー恵光園正職1名異動(本人希望))
- ・年明け退職者2名(急遽)

反省

毎年10月に全職員へ来年度の継続伺いを行っているが、継続希望で回答していたのに急遽年明けに変更を希望する職員がいた。時期的に保育士養成施設へ職員募集の働きかけが難しい時期だったため、新年度職員が不足してしまう結果となった。日頃から、職員の意向に留意していく必要がある。

地域交流推進執行報告

活動方針

地域との様々な関わりを持つことで、地域密着を図り開けた保育園を目指す。

年間目標

- ・地域との交流を通じて、園での取り組みを知ってもらう。
- ・様々な活動をしていく中で地域と共存する。
- ・HPの充実を計る。

執行報告

- ・近隣の学校や市や自治会などの地域交流イベントはコロナ禍ということもあり実施されず参加することができなかった。
- ・内山農園にての芋掘りについての畑おこし、草取り、収穫仕訳など周知や準備活動を行う。
- ・社会福祉法人の地域交流内容やみどりが丘保育園としてできる地域交流を職員全体が周知し、取り組めるように園内研修を行った。
- ・HPについて、良い点・改善点、またどんなHPがいいのか、参考になるものを出してもらったりと全職員にアンケートをし集計した。
- ・体操服について地域の幼稚園・小学校のデザイン・金額を調査し、新たな体操服の価格や販売方法を調査した。
- ・みどりが丘地域の公園を地図上に表し、各公園の遊具や内容をまとめ掲示した。
- ・子育て支援と協力し、地域の子育て家庭がイベントや園舎内(遊戯室)を利用できるようにし、また地域に公園に出向き交流する場を作った。そのことでみどりが丘保育園のイメージ、特別支援事業など知ってもらう事ができた。

反省

- ・コロナ禍においての地域交流を模索しながらの活動となった。地域でのイベント等は中止で参加する機会はなかった。
- ・園内研修で保育園の地域交流、社会福祉法人としての地域交流など職員間で共通理解を深めることができた。
- ・地域の公園を散策した画像や地図を掲示したことで身近な地域の魅力を知らせる機会となった。また子育て支援事業と協力し地域の方と交流する機会できた。

環境衛生執行報告

活動方針

- ① 防災
有事の際に全ての職員が適切な対応をとる事で園児の安全を確保する。
有事に備えた訓練計画を立て災害の恐ろしさや訓練の大切さを学ぶ。
- ② 環境衛生
衛生的かつ安全に保育園生活を送れるように園全体の環境を改善する。

年間目標

- ① 防災
命を守る事の重要性とその方法、連携を職員全体で話し合い共通理解を深める。
園児自身が安全の為に訓練を理解し自ら進んで参加出来るようにする。
- ② 環境衛生
各担当分野がそれぞれの役割を果たし安心安全に過ごせるように園全体の環境衛生に務める。

執行報告

- ① 防災
 - ・月に一度、避難訓練の実施
 - ・月に一度、避難リュックの中身の点検の実施
 - ・避難食の定期的なチェック
 - ・日案や貼り紙の作成
 - ・初の時間外（朝想定）の実施、および時間外のマニュアル（地震）の作成
 - ・地震対策として各部屋の棚に耐震マットや転倒防止板の設置。
また、棚の上の整理の呼び掛け
 - ・事務所の棚、更衣室のロッカーの上に、耐震用のつっぱり棒の設置、発注
 - ・防災頭巾の貸し出しの起案書の提出。来年度のつばみ貸し出し分の防災頭巾の発注
- ② 環境衛生
 - （園舎内）
 - ・各クラスへの掃除当番割り振り、表の作成
 - ・遊戯室片づけ
 - ・更衣室環境整備
 - ・各倉庫の整理整頓、片づけの呼びかけ
 - （絵本係り）
 - ・絵本棚の整理
 - ・絵本の補修
 - ・絵本リストの作成
 - （園舎外）
 - ・園外周の環境整備（園舎外壁、駐車場、危険箇所等）
 - ・園庭の環境整備（園庭、遊具、危険箇所等）
 - ・遊具、砂場の消毒（月1回）、修繕が必要な際はその都度修繕依頼
 - ・環境倉庫、外倉庫の点検、整理

反省

- ・月に一度環境係り会議を執行し、それぞれの行ったことを報告したり、来月行う予定の確認をするなど、連携を取るように努めた。しかし、次年度係りへの引き継ぎの際、上記の会議で報告していた内容と実際行っていたことが違うことが判明した。月に一度行っている遊具点検表が紛失していたので、会議の際に口頭だけではなく、点検表の確認も行うと良かった。
- ・概ね、計画通りに環境整備は行うことは出来た。

障害児保育・療育執行報告

活動方針

- ・子どもたち一人ひとりに対して同等に最善の利益を保証するために、「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」「参加する権利」の観点から、個々に生じた課題に関して積極的に向き合っていく。
- ・「子どもたちの育ちを支える力」を向上させるための知識を身に付け、各専門機関と密な連携を図りながらそれぞれにあった保護者支援を行っていく。
- ・気になる子・療育を必要とする子・障がいを持った子の個性を理解し、心地よい生活を送れるように必要な支援をする。そのため、園全体の専門知識を高め、より専門的な連携を図っていく。

年間目標

- ・各クラスの気になる子・障がいを持つ子に対する対応の仕方や、保護者対応の仕方について悩みを共有し、園全体で支援を行っていく。
- ・園全体での共通理解を図る。

執行報告

- ・教育支援ネットに参加し、情報交換を行った。
- ・保健師が来園した際にクラス担任を交えて情報交換をし、子どもの様子を見てもらった。
- ・気になる子について各クラスに月に1回書類を配り、記入してもらった。気になる子の様子や対応・変化について話をし、園全体での共通理解を図った。
- ・月に1度会議を設け、情報交換を行った。
- ・園内研修の取り組みとして気になる子の姿を観察する機会を作った。
- ・市の療育機関のパンフレットを用意したり、どんな相談を受けているのかをまとめたりし、保護者が見られるようにした。
- ・こどもプラスでどういった活動をしているのかを調べ、共通理解ができるように職員に周知した。

反省

- ・定期的に会議を行うことで情報交換ができて良かった。
- ・気になる子の姿を実際に見に行くことで、書面で見ていた姿をより明確に捉えることができたと思う。可能であれば継続して見に行ける機会を作りたかった。

事故虐待防止対策執行報告

活動方針

- ・事故発生防止 : 子どもの心身の安全な保育環境を確保する。
- ・児童虐待防止 : 子どもの最善の利益を守る。

年間目標

- ・事故発生防止 : 危険な箇所を発見し、環境の見直しをすることで安全な環境を提供する。
- ・児童虐待防止 : 日々の保育を振り返り、園内での子どもの権利を守る。各家庭の状況についての共通理解を図る。

執行報告

年間計画に基づいたレジュメを作成し、毎月各クラスへ配布。それを元に月に一度会議を行い、振り返りや共通理解が行えるようにした。また、会議録の作成をし、会議の内容をわかりやすくまとめたりした。

- 4月
 - ・去年から引き継いだ新確認表の実施
 - ・怪我マニュアルを改めて全体に周知
- 5月
 - ・新確認表の直しを行い、5/1より実施
 - ・テラスの角カバーやボンドなどの発注
 - ・きけんな虫リストの作成→幼児クラスに配り、子どもたちにも周知
 - ・不適切な関わりのアンケートの実施
- 6月
 - ・幼児棟玄関の怪我を元に、貼り紙の作成、貼り出し
 - ・事故・虐待係として園内研修の実施
- 7月
 - ・きけんな虫の処置の仕方を配布
 - ・テラスの角カバー付けの実施（7/28、29）
- 8月
 - ・テラスの角カバー付けの実施（8/18、8/25）
 - ・降園時の扉の貼り紙のリニューアル
- 9月
 - ・散歩コースなどのアンケートの実施
- 10月
 - ・散歩マニュアル作りの開始
 - ・散歩のマップ作りの開始
- 11月
 - ・ヒヤリハットの検証の実施
- 12月
 - ・ヒヤリハットの検証の実施②
- 1月
- 2月
 - ・ヒヤリハットの検証の実施③
- 3月
 - ・来年度への課題の洗い出し

反省

年間計画を元に、事故虐待について、振り返りや共通理解をはかることができた。危険箇所についても、外のテラスの角を大々的に行うことができ、良かったが、まだ終わっていない箇所もある為、引き続き行えるようにする。

今年度は、ヒヤリハットの浸透に更に力を入れ、ヒヤリハットの検証などを始めることができた。保育の時事問題や事例などがあると良いとの意見があがっていたので、話し合えるようにしそこから保育の見直しになるようにしていきたい。

乳幼児環境構成執行報告

活動方針

年齢にあった行事の在り方を理解し、伝統を大切に
行事にあった環境を考え、伝えていく

年間目標

行事を楽しめるような環境を作る

執行報告

- 3月 入園進級用に幼児棟、乳児棟に壁面を製作
- 4月 子どもの日に向け塗り絵や行事遊びを配布
幼児リーダーと話し合い毎月第二火曜日に行事や遊びについての話し合いを行う
- 5月 こいのぼりを4月26日～5月7日まで飾る
電線ドラムをテーブルとして活用予定の為呼びかけ
梅雨の壁面飾り、子どもたちに向けた製作の見本を掲示
- 6月 虫探しや図鑑遊び用に幼児棟に生き物のイラストを掲示
子どもたちへの遊び提供として、画用紙を四つ切にし用意、ポケモンの折り紙の折り方
を用意する。電線ドラムの研磨、ニス塗り。梅雨、夏の塗り絵提供
- 7月 タイヤ設置のためのアンケート実施
夏の壁面掲示、夏の遊びとしてゼリー、寒天、泡等の感触遊びを週1提供
- 8月 園庭にタイヤの設置
こすもす廃材での製作コーナー設置
- 9月 お月見壁面、由来を掲示
- 10月 ハロウィン壁面、子どもたちへのプレゼント製作、給食室へおやつの手配
- 11月 裏の除草作業、キャンプごっこの手伝い
- 12月 クリスマスツリー設置、壁面掲示
- 2月 節分遊戯室に壁面、豆入れ遊びを設置、節分の塗り絵を用意
- 3月 雛人形設置（遊戯室、幼児棟、絵本コーナー）

各行事に日案提出

反省

行事として掲示は子どもにも分かりやすいようにしていった。
夏の感触遊びには子どもたちが興味を持って参加できるように楽しんでる姿が見られた。
幼児中心となってしまったので、乳児の遊びの展開なども視野に入れていき話し合いが行えれば
良かった。

保育実践マネジメント執行報告

活動方針

- ◎一人ひとりの職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上
～個々の職員がそれぞれの特性を活かせるようにする～

年間目標

- 職員一人ひとりが専門性を向上できるよう研修の計画、保育等の指導を行っていく。

執行報告

- ◆職員が主体的に園内研修・外部研修・勉強会等に参加できるよう計画し、開催した。
(山武市会研修、園内研修一年10回程度、自主勉強会等)
- ◆キャリアアップ研修で得た知識を会議等で報告し、職員間で共有した。
(乳児保育、幼児保育、障害時保育、食育アレルギー対応、保健衛生・安全対策、保護者支援、子育て支援、マネジメント等)
キャリアアップ研修に参加した保育士が、園内研修で知識を報告する際助言や補足を行った。
- ◆各分野別リーダーの意見を聞き、指導を行った。
幼児保育・乳児保育・障害児保育・マネジメント・保護者支援・・・加藤岡
幼児保育・保護者支援・マネジメント・保健衛生安全対策・・・佐藤
乳児保育・幼児保育・食育アレルギー・マネジメント・・・森
保健衛生・安全対策、食育アレルギー・マネジメント・・・丹
健康増進活動・・・佐藤(幼児体育指導者2級)※からだの学校・・・理学療法士監修
- ◆年間カリキュラムの見直しや改定保育所保育指針に合わせた保育内容の確認・指導等を行った。
- ◆マネジメントを行い職員の心身の健康や管理を行った。
 - ・職員のシフト管理、配置、朝の朝礼は、連携を取り行った。
 - ・新規採用者オリエンテーション(3月)
 - ・実習生オリエンテーションをし、実習生を受け入れた。
 - ・ICT化を促進させる為、何社か業者の説明を聞いた。
- ◆健康増進活動について
 - ・からだの学校(6月3日～)年間2回理学療法士が園を訪問し、5歳児中心に話をする。
その後は、2カ月に1回、zoomにて指導を受け、健康に保つ為の運動や活動等を子どもや保育士等に伝えたり、指導、実践したりし情報発信した。
- ◆保護者支援について
 - ・毎月クラス便りの指導や助言を行い、保育内容や子どもの姿を保護者に知ってもらえるようにした。クラスでの活動を伝える方法(ドキュメンテーション)等は、コロナ禍で例年より少なかった。
- ◆遊びの環境について
 - ・物的・人的・自然・社会について各部署との連携を取りながら振り返り、改善を行った。

反省

- ・コロナ禍でいろいろ制限がある中での保育には、知恵と工夫が必要である。なかなか職員同士コミュニケーションが薄い中連携を取っていかねばならないが、限られた中でうまく連携をとりチームワークよく保育できるとよい。
- ・キャリアアップ研修受講者が増えていくので、受けた方々が知識を知らせていくことを期待し、助言や指導を引き続きしていく。
- ・なかなか外部研修に行けないのでオンライン講習などを活用し外部研修を受けることができ良かった。
- ・からだの学校では握力などの数値化することにより、子ども達の成長度合いがわかりやすかった。又、理学療法士に普段の子ども達の運動遊びで不足している動きであったり、体のその部

分を使っているのかその場で説明をしてもらったりすることが出来たので、今後の運動遊びの目標を立てやすかった。

- ・コロナ禍で掲示物等の自粛もあり、思うようにドキュメンテーションの活用が出来なかった。クラス便りでクラスでの活動を伝えていったが、もう少し子どもの様子を知らせられるよう工夫が必要である。
- ・遊びの環境については、特に自然について活動が薄いと感じたので改善できるとよい。

保健衛生マネジメント執行報告

活動方針

園児や職員が心身共に健康で安全に過ごせるよう、一人ひとりの発育・発達状態や健康状態を配慮しながら保健衛生活動を行う。

年間目標

- ・子ども達が快適な生活（発育・成長発達に適した生活）を送り、健康で安全に過ごせるよう支援する。また、生理的欲求が満たされ、健康の保持・増進を図る。
- ・職員が心身共に健康で、より良い保育が提供できるように支援する。

執行報告

- ・月1回の会議で感染対策の見直しや問題解決策の検討、情報共有を行なった。
- ・園内での新型コロナ感染症発生時、保健所に連絡し指示を従い濃厚接触者の洗い出し、ママ蓮メール送信（全体・濃厚接触者）、濃厚接触者で検査を受けた人の記録・報告（保健所）、クラスへの指示等の対応を行なった。また、その時の教訓をもとに幼児のマスク着用を励行。
- ・感染状況に応じてフッ化物洗口の実施を検討した。
- ・保健指導（手洗い・手指消毒・虫歯予防）
- ・子どもたちの健康状態や欠席者の情報、毎日の欠席者人数を把握・記録することで、サーベイランスに活用。
- ・ラジオ体操を毎朝実施。年長児に当番制で開始のアナウンスを担当させる。
- ・保護者参加行事時の検温・健康チェック票の確認。
- ・園外研修（オンライン研修）に参加。そこで得た他園での感染対策を参考に1歳児用のパーテーション作製。
- ・毎月の身体測定値から発育異常等の疑いや傾向のある園児の成長曲線を作成し、それを元に担任と連携し保護者へ助言。栄養士にも情報共有。
- ・体調不良児や病欠者の保護者へ積極的に声かけし、状態把握や助言を行なった。

反省

- ・当初子どもは感染しにくいという新型コロナウイルス感染症だったが、変異株の出現により10歳未満の子どもが感染する確率も高くなり、家庭内感染も増加した。8月にクラスター発生となり休園措置をとったが、以後はクラスターは起こらなかった。8月のクラスター発生で感染症対策を見直し対応したことで、集団発生を防ぐことができたのではないかと思う。また、幼児に関してはマスクを着用したことによって、濃厚接触者と特定される人が限られ、保護者の就労への影響も減らすことができたと思う。
- ・コロナ対策等は現場の職員の意見を聞き、他の職員と連携をとりながら行うことができたと思う。来年度もまだコロナ禍は続くと思うが、感染状況や国の方針等を考慮しながら、感染対策

をその都度見直したりしていく必要があると考えられる。

年間反省

新型コロナウイルス感染症の余波を2年以上受け続け、コロナが出始めた頃とは変化を見せ始めた令和3年度であったが、言うまでもなく保育園生活が今後どうあるべきかを問われる中で様々な意見が飛び交う年でもあった。保育園の日常、行事、保育料、ワクチン接種など子ども達はもちろん、子ども達の成長を見守りたい保護者の気持ち、その家庭の生活、保育士の生活、子ども達を取り巻く環境には、様々なところで影響を及ぼす可能性がある事を改めて再認識することができた。すなわち、保育園が常に開園を求められているというところに繋がってくるのであろう。

今年度8月には新型コロナウイルス感染症に伴う1週間の休園措置を行ったが、その後感染拡大予防策についての会議を数回行い、感染症を持ち込まない、持ち出さない、拡げない為の再検討が行われ対応への協力を呼びかけていった。ウイルスも進化し続けそれに伴った対応も変化させていったが、現時点では給食の黙食や、3歳以上児には不織布のマスクの着用をお願いするなど子ども達に対しても負担を強いられる場面が生じている現状ではある。しかしながら、こうした対応の結果、保育園での爆発的な感染は抑えられている。とはいえ、今後論争になりつつある感染症対策についての様々な意見や国の方針転換などを予想するに、この状況がいつまで続けられるかは、不透明な部分が多い。

今後も感染症対策については、保健所や自治体との連携を図り、情勢を把握しながら、子ども達や保護者の声、そして職員の声に耳を傾けていき、柔軟に対応していきたい。

特別保育事業の年間稼働率は、国の緊急事態宣言や保育園休園の関係で休館対応が続き、3事業所とも50%を下回る結果に留まったが、コロナ禍だからこそ何をすべきかそれぞれに工夫がみられ、徐々に軌道修正を試みている。新規利用者の獲得へアピールポイントをわかりやすく発信し、相談しやすい窓口の提供を目指していった。

外部研修の場が減っていく中で、園内研修をより充実化させることで、職員の資質向上に向けた取り組みを行った。同じ園で働く職員であっても部署が違えば働く環境も園児への対応も全く違ってくる。今与えられた職務を全うしようとして日々努力している姿がみられるが、第三者として他部署の仕事を見たとき、第三者から自分の仕事を見られたとき、新たな気づきを発見する良い機会となる。園内研修ではそういった機会を多く持ってもらおうと、グループディスカッションの時間を設けた。自分には無かった意見、経験者からの貴重なアドバイス、など実際の業務に基づいて話が進められていく為、イメージしやすく身に入りやすい効果が生まれている。また、講師となる職員も固定せず幅広い世代に経験させることができた。職員のスキルアップの場として充実した時間となった。

子ども達の年齢や成長に合わせて個々への対応を目指していく中で、職員一人ひとりが専門技術の向上に努力している。委員会の在り方や研修の在り方を意味のあるものにしようと各リーダーが試行錯誤し新しい事にもチャレンジする姿がみられたことが組織的にも良い方向性である。と考える。子ども達だけではなく職員にも制限が課せられる今の世の中だが、ダメなら終わりではなく、違う道を探す事に力を注げる術を学ぶ機会となっている。こうした経験が子ども達への保育につながり子ども達の経験にもなっていく。大人は許されるけど子どもは許されない。そういった上下関係では保育は成り立たず、大人の経験したことを子ども達に伝え共感し考える。または、子どもが経験したことを大人が共感し受け止める。そういった関係性が保育園の本来あるべき姿である。と考える。コロナ禍によりマイナス面が多く目立つようになってしまったが、こういったプラスの面が見えてきた事に次年度への大きな活力となる。

R 3 年度 保育園における自己点検・自己評価

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

理事長	園長	主任	主任	副主任	事務

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1) 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				
	(2) 目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしているか。	○				
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	○				
保育について	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				
	(2) 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。		○			
	(3) 環境の構成を意識した保育や課程を常に工夫しているか。		○			
	(4) 素材・用具を適切に活用しているか。	○				
	(5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○			
日時程	(1) 1日の流れ(デイリープログラム等)は、現行でよいか。		○			
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。			○		・感染症対策を講じた上で慎重に検討を重ねた結果だが適切かは疑問。 ・出来る範囲で努力はしてきたが、園児や保護者の要望に応えられない場面もあり。 ・保護者の要望に対して応えられない現状に丁寧に分かりやすく説明することが課題。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。			○		
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。			○		

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策		
		A	B	C	D			
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。			○		・連携の歯車がうまく機能しない場面も見受けられる。コミュニケーションを図っていく。	
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○				
		(3) 職員の配置は適材・適所か。		○				
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○				
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○			・自分の立場を理解できていない一部の者に対してわかりやすい説明を施す。	
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか			○			
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。		○				
	年齢別・クラス経営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	○				・異年齢交流が充実しているとは言えないが戸外遊びなど交流する時間も少なくはない。 ・更なる連携強化を図り、チームの重要性に共通理解をもつ。	
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	○					
		(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。		○				
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているのか。			○			
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。			○			
		(6) 評価、資料(諸記録)を集積しているか。	○					
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				・地域社会との連携は難しい状況。まずは自助の強化体制を図る。	
		(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。		○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○				
		(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。			○			
	研究・研修	園内研究・研修	(1) 研修主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	○				
			(2) 園内研修の計画・運営は適切か。	○				
			(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。		○			
(4) 研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。				○				
園外研修		(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っているか。			○		・研修参加の機会が減り、十分に参加できなかった。	
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。			○		・研修に参加できない現状があり、園内に還元する機会が持てなかった。	

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
情報について	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○					
	(2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。		○				
	(3)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。		○				
施設・設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○				
	(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。		○				
	(3)不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。		○				
	(4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○				
出納・経理	(1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。				○	・当期末支払資金残高の保有の状況について指導監査により指摘を受けるが改善済み。	
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	(1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。		○			・感染拡大予防への配慮が先行してしまう。 ・共通理解に乏しく、より積極的な体制が必要。 ・教育についての理解を深め接続への準備を図る。 ・日常的な情報交換ができなかった。
		(2)他施設等の児童と触れ合う中で、乳幼児が充実感を味わえる配慮や援助・支援を行っているか。			○		
		(3)指導者間で、合同研修等にて互いの保育・教育に対する共通理解を図っているか。			○		
		(4)参観や保育・授業に参加するなどして、幼稚園小学校の教育を理解しているか。			○		
		(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。			○		
	地域交流・連携	(1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。			○		・制限を持たせつつ保護者が少しでも、子どもの様子を伺える様努力はした。
		(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。			○		・厳しい状況が続いた。
		(3)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。				○	・興味関心を引き出すのが、交流が困難な状況。
	(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。				○	・地域の行事自体が無い状況。しかし、こちらから何かアプローチできることも考えるべき。	

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
情報について	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や中庭、保育室を解放しているか。		○			
		(2) 地域の子ども、あるいは親子と一緒に遊ぶことができる場の設定を行っているか。		○			
		(3) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○			
		(4) 職員による育児に関わる「子育て相談」は充実しているか。		○			
		(5) 医療機関、児相等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
	情報発信	(1) 園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。			○		・地域の公園を利用し情報発信の場を設けたが十分ではなかった。
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。				○	・第三者評価の導入に至っていないが今後検討。
		(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。				○	・感染症対策で多くの協力を得ている。ご理解を求める場面が多く、不満も膨らむ一方。